KING SKYFRONT
Kawasaki INnovation Gateway at SKYFRONT
i-Newsletter
キングスカイフロント広報誌
2026 autumn

未来の事業の幹を育てる ―― 新たな価値創造への挑戦 ――



長年、名古屋の研究所でコア技術であるアクリルポリマーの開発を牽引し、自ら手掛けた技術の製品化・事業化を果たしてきた河合道弘氏。2026 年 1 月、開設準備段階から深く携わった川崎フロンティエンス R&D センターのセンター長に着任した。将来を見据えた新規材料の開発、関東圏のアカデミアや企業との共創、そしてグローバルな視点を備えた若手研究員の育成に挑む同氏に、新拠点の役割や将来像について話を伺った。

アクリルポリマー研究から事業の柱を生み出した歩み

河合氏の原点は、名古屋大学で専攻した高分子化学にある。1986 年に東亞合成株式会社へ入社後、一貫してアクリルポリマーの製品開発に従事。1993 年にはカナダのマクマスター大学へ留学し、特殊な重合技術を習得した。帰国後は技術導入を主導し、東亞合成の「ARUFON」※1 という商標のアクリルポリマー製品群の実用化に成功した。「自分が手掛けた技術が製品化され、社会の役に立つ。これこそが技術者として何よりの喜びです。」と振り返る。その後、名古屋クリエイシオ R&D センターのセンター長を務めながら、川崎フロンティエンス R&D センター開設準備室長を兼務し、空間デザインや内装設計にも関わり、2026 年 1 月に同センターのセンター長に就任した。

※1 ARUFON・・・東亞合成が技術開発を進める UFO（Uniform Functional Oligomer）技術から得られるアクリル系ポリマー製品群の総称。

未来を見据えた研究開発拠点

名古屋の R&D センターが既存事業の改良などを担う一方、川崎の R&D センターでは、メディカル材料、次世代電池材料、セルロースナノファイバー※2 など、中長期的な視点で挑む新規テーマを扱う。「名古屋の研究所は短期的な成果が求められますが、川崎の研究所は将来を見据えた研究に腰を据えて取り組める環境です」と河合氏は語る。フリーアドレスを採用したオープンなオフィスなど、研究しやすい環境も整っている。さらに、首都圏で開催される展示会や技術セミナーにも参加しやすくなり、最新技術に関する情報収集の機会が広がった。

※2 セルロースナノファイバー・・・植物由来のセルロースをナノサイズまで細かくした、軽量で高強度の素材。

組織の垣根を越え、次の研究テーマを生み出す

同センターは、中長期の研究開発だけでなく、社外との連携による研究テーマの創出も担う。新材料の研究開発部門に加え、顧客の課題を探りながらテーマを提案する部門、メディカル事業部も同じ拠点に集約され、自社の技術と市場ニーズを結びつけやすい体制となっている。キングスカイフロントを選んだ背景には、企業や大学、研究機関との距離を縮めたいという狙いがある。実際に、近隣企業や大学・研究機関との交流を重ね、互いの技術への理解を深めるなかで、新たな研究テーマの芽が生まれている。河合氏が重視するのは、交流そのものを目的とせず、研究開発や事業につながる関係を築くことだ。地域のネットワークを生かして技術的な対話を深め、新たな可能性を探っていく考えだ。

若手の可能性を信じ、世界を見据えた新たな事業の幹を育てる

マネジメントで河合氏が意識するのは、研究員の「自己実現」と「ゴール意識」だ。指示待ちではなく、「これがしたい」という主体的な提案を尊重し、方向性を示した後は自由な発想に委ねる。コストや製造プロセス、市場ニーズまで見通す視点を養い、製品化というゴールを目指す。もう一つ、若手研究員に期待しているのが、海外への挑戦だ。「競争相手は国内だけでなく世界にいます。若い世代には『内向き思考』を打破し、海外の最新技術や研究者に触れる楽しさを知ってほしいです」と話す。自身のカナダ留学での経験を踏まえ、海外技術の調査・導入も推進している。「現在の重点テーマを確実に製品化し、次のニーズに応えるテーマを絶え間なく立ち上げ、事業の『幹』を太くしていきたいです」と河合氏は意気込む。川崎フロンティエンス R&D センターから、次世代を担う技術と事業を生み出す挑戦は続いていく。


河合センター長と東亞合成の未来を担う若手社員

東亞合成株式会社について ▶

NEWS メタジェンセラピューティクスが日米共同臨床試験を開始

メタジェンセラピューティクス株式会社が、2026 年 9 月 4 日付の「日経バイオテク」に取り上げられました。同社が開発する経口 FMT 医薬品「MGT-006」について、潰瘍性大腸炎患者を対象とした日米第 1b/2a 相臨床試験を開始し、2026 年 8 月には日本で初回投与を実施しました。記事では、日米での臨床試験戦略や、今後の米国展開、ライセンスアウトに向けた取り組みなどが紹介されています。

日経バイオテク掲載記事 URL：
https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/p1/26/09/03/14991/

メタジェンセラピューティクスの HP

NEWS テクモフの MOF 技術が紅麹問題の構造解析に貢献

テクモフ株式会社が、紅麹問題に関する研究への技術協力について、2026 年 9 月 8 日付の「日経バイオテク」に取り上げられました。国立医薬品食品衛生研究所などの研究チームが、従来の手法では構造決定が難しかった化合物 Y・Z について、テクモフの MOF を用いた結晶スポンジ法により構造解析を実施し、テクモフの技術が化合物の立体構造の解明に貢献しました。

日経バイオテク掲載記事 URL：
https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/column/16/020100064/090400040/?n_cid=nbpnbt_twed

テクモフの HP

トノビト

トノビトとは、キングスカイフロントで働く人々の人柄や素顔をご紹介し、交流のきっかけを届ける連載企画です。



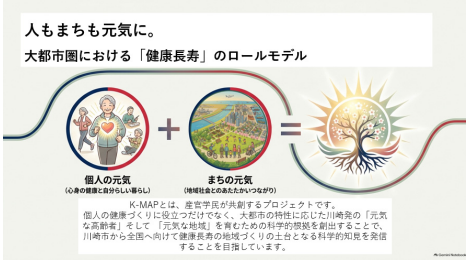
The HOTEL Well-hub Haneda
石原 美月 さん　ホテル HP

『The HOTEL Well-hub Haneda(旧・川崎キングスカイフロント東急 REI ホテル)』でゲストリレーション販売促進を担当する石原美月さんにお話を伺いました。今年 7 月のリブランドに伴い外部パートナーが増えたことから、石原さんはホテルスタッフとパートナーの間で情報や想いをつなぐ「橋渡し役」として、新たなホテルの土台作りに取り組んでいます。「ゼロからのスタート」に迷いもありましたが、現場で想いを共有し、チームが一つになれたと感じる瞬間が今のやりがいだそうです。目指すのは「誰でも気軽に来られるホテル」。運用の形が変わった今も、地域の皆様に素敵な時間を過ごしていただけるよう力を尽くしたいと語ります。学生時代はバレーボールに打ち込み、厳しい練習で身についた粘り強さは、制作物への厳しい指摘にも気持ちを切り替えて再提案する今の仕事ぶりに生きているそうです。1 日の終わりのビールが何よりの楽しみで、休日は自宅で映画やアニメを観ながら晩酌を楽しんでいるとのこと。持ち前の粘り強さを武器に、ホテルの未来へつなぐトスを、石原さんは今日も上げ続けています。

慶應義塾大学殿町タウンキャンパス × 川崎市による「川崎みらいアクティブ・プロジェクト（K-MAP）」がスタートしました　～人もまちも元気に～

慶應義塾大学殿町タウンキャンパスは川崎市と連携し、自立した生活を送る 75～79 歳の市民約 1,000 名にご参加いただく大規模な共同研究「川崎みらいアクティブ・プロジェクト（K-MAP）」を開始しました。本研究では、運動・食事などの日常生活習慣をはじめ、地域コミュニティとの関わり、遺伝子・バイオマーカー解析、医療や介護のレセプトデータなどを多面的かつ統合的に分析します。

目的は、いつまでも健康でいられる要因を科学的に解明し、個人の心身の健康や生活の充実度（ウェルビーイング）を可視化・向上させる独自の「元気指標」を開発し、ひいては「元気地域」を育むための実践的知見を提供することです。まずは、1000 名規模の前向きコホート研究の立ち上げに注力しています。今後、これまでの百寿者（100 歳以上）研究や川崎高齢者（85～89 歳）研究の豊富な知見も融合させ、産官学民が一体となって予防医療や社会政策に寄与する新たなサービス・製品の開発、持続可能な社会の仕組みづくりを推進します。市民の皆様とこのまちが、将来にわたり活気にあふれた地域となるための確かな土台構築に貢献してまいります。



※上部の画像は AI 生成によるイメージです



市民公開講座の様子



慶應義塾大学
スポーツ医学研究センター／大学院健康マネジメント研究科
小熊祐子教授

キックオフの川崎市民公開講座にて；2026 年 6 月 29 日開催



9 月の調査　開始前のスタッフミーティング
（川崎市産業振興会館　調査会場にて）

K-MAP
川崎みらいアクティブ・プロジェクト

本誌ではキングスカイフロント立地機関に関するさまざまな情報を発信しています。ご意見・ご感想などを QR コードのアンケートにぜひお寄せください。また、ニュース掲載のご依頼等のお問合せは下記のメールアドレスよりお送りください。

発行日：2026 年 11 月 18 日
発行元：公益財団法人川崎市産業振興財団 殿町キングスカイフロントクラスター事業部
Mail ： pr-ksfcl@kawasaki-net.ne.jp